

学校運営協議会(全日制部会)議事録

校名	大阪府立佐野工科高等学校
(准)校長名	松野 良彦

開催日時	令和 4年11月17日(木)15:30～16:30
開催場所	佐工会館1F
出席者(委員)	山田啓次会長 上野公義委員、杉本英雄委員、山田真佐美委員、町谷雄二委員、
出席者(学校)	松野校長、山口(昌)教頭、佐々木事務部長、瀧本、飯田、西口、金丸、川村、山口(俊)、坂本、古谷(明)、奥田、森栗、五十棲、中嶋
傍聴者	なし
協議資料	令和4年度学校経営計画及び学校評価、令和4年度各分掌目標、令和4年度普通科・各系組織目標、令和4年度「地域産業連携重点型工科高校」としての取り組みについて
備考	

議題等(次第順)

- ・令和4年度学校経営計画及び学校評価
- ・スクールミッションについて
- ・令和4年度 各分掌よりの目標 進捗状況
- ・3系の課題研究の取り組み・工学基礎演習のアンケート結果と成績の関連性・EB3関連の取り組み
- ・令和4年度「地域連携等一覧表」(コンソーシアム)

協議内容・承認事項等(意見の概要)

〈中間考査をなくしてチャレンジ週間を作った件について〉

○中間考査をなくしたというのは今年度からか。他の学校では行われているのか。

【Ans】今年度からである。その期間はチャレンジ週間として、午前中授業の後は生徒の自由に学べる活動期間としている。他校では実施されていないようなので本校は先進的といえる。

○どれぐらいメリットがあるのか。

【Ans】観点別の評価として学力以外の2つの観点があるのに対し、学力チェックのための中間考査の期間で授業の時間を減らしているのと同じことである。中間考査をなくすことで授業回数切迫の縛りがなくなった。

○生徒の活動はその分活発になったのか。取り組んだことの報告はあるのか。

【Ans】生徒の自主性に任せてあるので家に帰ってやりたいことをする生徒もいる。特に報告はさせていないが、中には家でスケボーの練習ができたなど一部の情報はきいている。

○社会の変化に合わせてこれらの改革にどのような成果があるのか検証できるとよい。

○カリキュラム的には考査範囲が広がるなど期末考査の内容に変化があったのか。

【Ans】例えば考査1では4月から7月までのすべての範囲でなくてよい。日々の振り返りや小テストを含めて評価が可能である。それも毎時間か単元毎か教科特性によって判断している。

○3年生の就職選考など現在は点数の順位で決定しているが、今後、観点別の総合評価では実際難しくなってくるのではないのか。

【Ans】学力以外のところを見ていく必要性があり、検討中である。

○ひと昔前にはゆとり教育の弊害など問題視されたことがあったが、考査があるから頑張るということもあるのではないのか

【Ans】確かに、全部なくすのはよくないが、学期ごとの3回のテストでよいと判断している。

〈学校広報活動や取り組みについてのアンケート結果について〉

○9月25日実施の泉佐野商工まつりでは5000人もの来場客があった。屋内作品展示や広場での体験販売などに参加いただき、お礼を申し上げたい。

玄関のポスターロボット相撲なども頑張っておられる様子。生徒のアンケートについてはやる気の見えてくるものである。

【Ans】ロボット相撲は全国大会に出場する。またこれについてはNHKの取材を受け11月25日6:30より生放送される。アンケートのサンプル数は63で15人から5人のばらつきがある。

〈スクールミッションについての意見〉

○学校としての一番だいじなものは何かというところを謳っているのも良いと思う。3系の取り組みについてもうまくまとめられている。

○国際競争力が低迷する中、創意工夫、創造性を育てる教育をめざしているところは良いと思う。

〈各分掌からの報告内容について〉

○雨の日の自動車送迎などでは地域住民との間で問題はなかったか。

【Ans】朝の登校時間の保護者の自動車送迎でその他の車が停滞しないよう、駐車場所については検討中である。学校の門まで来るところでは道幅も狭いことから、地域住民の方のご指摘のとおり、保護者に遠慮してもらうことを伝える。

○オープンスクールや地域連携の広報戦略をどのように立てているのか。

【Ans】生徒主体のオープンスクールを引き続き行いたい。生徒が説明をすることで出身中学校の方からは高評価をいただいている。学校PRの点ではSNS活用やテレビ新聞の報道では情報を届けたい層には見てもらえていないところがある。中学校へは依然として郵送物を送っている。

○コロナによってICTが進み、中学校でも一人1台のPCで教育活動を行うようになった。ネットを通じた情報発信でのアプローチのほうが良いのではないか。

【Ans】今のところHPを検索しないとYouTubeなどにたどり着きにくい。

○例えばQRコードでリンクのようなものが貼ってあれば、印刷物より動画が受ける中学生には良いかと思う。

【Ans】アピールできるものとして一つ例を挙げると、現在、WEB3の取り組みで生徒が仮想空間の建築物を作っている。中学生でも見ることができる。⇒(テレビモニターに表示)ゲーム会社と連携してメタバースをやっているのは本校だけ。

○もっと見せるべきではないか。現在、別の中学校とeスポーツをやっているが、メタバースは中学生でも作れるのか。

【Ans】プログラミング技術とサーバーがあれば可能である。

○中学生に対して進学フェアなどの中での情報発信にも利用していけばよいと思う。他にはない取り組みとして注目されるし、何より中学生に一番影響力のある保護者と一緒に体験できるものがあるとアピール力が上がる。

〈まとめ〉

○今までの常識になっていただけの年間5回の考査を3回にしたことは、大学でも前期後期2回なので、妥当な教育方針であると思われる。

○アンケート結果を数値グラフ示してもらってわかりやすかった。

○生徒主体のオープンスクールを引き続き実践してもらいたい。

○メタバースは興味深い取り組みなのでぜひ見つけやすい方法を画策していただき、保護者と生徒をターゲットにした学校PRに活用してほしい。

次回の会議日程

日時	令和5年2月頃で予定 日程調整行います
会場	佐工会館1F